

# あなたはどちらの国に生きるのか失われた者Ⅶ 彼の友に「収穫の源～何にとどまる？」

ヨハネ15：1-14

## ■ ぶどうは繁栄の象徴

ぶどうという果物は、昔は平和の象徴でした。ぶどうを育てるために何年かかるかみなさんご存じですか？ぶどうが実まで7年もの月日を要するのです。ぶどうを育てている人はわかるとは思います、種無しぶどうにしようと思うと1週間の間に1房1房にホルモン剤をつける。これを2回繰り返します。このように、物凄い手間のかかることを、この当時やっていたということはこの地域は平和だったということがわかります。

ソロモンの時代は40年間平和な時代が続きました。ソロモンは神様に知恵求め、争いではなく、対話で問題を解決していった人物です。このように神様に寄り添い主の御言葉に聞くことが大切です。

## ■ 無意味な行動

犬が小さなザリガニに向かって必死に吠えている動画を観ました。この姿は、まさに無意味な行動です。小さなザリガニに向かって一生懸命犬が吠えたところで、あの犬には何も良いものは残りません。私たちの人生もこの犬と一緒に無駄なことに努力してしまいます。だから今一度私たちは、誰により頼み誰と共に歩むべきなのか？私たちは友によって研がれます。だから良い友を持てば私たちは幸せです。そして私たちに親身になって寄り添ってくれる友がいますそれは彼＝イエスキリストです。

## ■ 失われた者それは友

私たちは大切な友を持っていますか？自分のために命も惜しまないそんな友がいることが大切です。みなさんにはこのような友はいますか？私が間違っていることをしている時、それは違うと言ってくれる友はいますか？相手に言いつらいことを言うにはデメリットがあります。嫌がられるし、文句も言われ返り討ちにも合うかもしれません。教会の姿もこのような姿が本来の姿と言えるのではないのでしょうか。

聖書にもそれが、友の仕事だと書かれています。2000年前イエスキリストは友としてこの地に来ました。しかし多くの人達は、友として受け入れず、十字架にかけて殺しました。

イエス様が語る事が嫌で耳障りだったのです。あなたのために耳障りな言葉を語られる時、なぜ自分に語られているのかをよく知っておく必要があります。イエス様がなぜユダヤ人達に、伝えたのでしょうか？それは、イエス様が命を懸けることによって、のちにユダヤ人が私のところに還ってくるかと信じて、体を張って真剣に伝えました。

## ■ とどまりなさい

ヨハ 15：2『わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈込をなさい。』この枝というのはユダヤ人を表しています。神様はこの枝を燃やしてしまっ終わらせようとしているではありません。

ヨハ 15：3『あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです』ぶどうで例えますが、大事な枝を切ることは決してありません。枝の間に入ってきた、無駄な芽を切るのです。これは多くの実を結ぶために刈込しているのです。これは私たちが神様によってもっと良い枝になるように刈込をされているのです。

## ■ とどまる＝一体になる

中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ枝だけでは実を結ぶことはできません。同様にあなたがたもわたしにとどまっていなければ実を結ぶことはできません。』このように、幹にとどまっていなければ実にもなりません。ではぶどうの木はどこが幹でどこが枝かわかりますか？ぶどうの木は実は一体なのです。この一体とはとどまるという意味をもっています。

原語ではダーヴァク＝結婚を意味しています。では聖書で初めて結婚という言葉がでてきた箇所は創世記2：24『それゆえ男はその父母を離れ妻と結び合い、ふたりは一体となるのである』神様はこの箇所では何が言いたいか。それは、イエス様と私達は一体なんだということが言いたいのです。みなさんも刈込をされる時って恐れが出てきますよね。しかし、この刈込は私達ももっと良くなるために無駄な枝を神様が切ってくださいしているのです。

私達は、神様によって一つにされるために、刈込の時があることを知っておくことが大切です。

## ■ わたしのことば

ヨハ 15:7『あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたにたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。』このことばというのは神様のことばです。神様のことばがわたしたちのとどまっているなら何も問題はありますが、大概、私達は、いいときは神様のことばは聞かず、問題がおきた時に神様になんでこんな目にあうのですか？とい風に聞きます。これだから、うまくいくわけがありません。だから、いいときに本当にこれでいいのかを神様に聞くことが大切です。

そうすると私達と神様とは一体になっているので、私達が必要なものの願いが変わっていきます。

15:8『あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです。』このように神様は私達が繁栄し栄光を受けると言っています。私達が実を残すために神様と共にいることを選び、神様のことばを聞けば豊かに実を結ぶそれが私の喜びだと神様は言っています。

## ■ 愛にとどまりなさい

15:9『父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。』なぜ神様のことばが語られるのかそれは、神様が私達を愛してくださっているからなのです。

15:10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。

15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。

15:12『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。』神様は私達に喜んで欲しいと願われています。ここで神様の戒めとはなんだったんでしょうかそれは、愛し合うことです。

## ■ 友 ヤーディー 愛する者

15:12『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。』

15:13 人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

15:14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。

ここにある友とは愛する者という意味です。そして友の延長が夫婦なのであって一体なのです。

夫婦は友でなければいけません。だから相手に苦言をいうことも必要なのです。

ヨハネ4：25-26

友は一切のことを伝えようとする役割があります。だからイエスキリストと共にいるということは、イエスキリストが一切のことをすべて教えてくれるということです。だから神様のことば聞く必要があります。

## ■ さいごに

私達が、種の蒔きどころがわからない時、いくら種を持っててもこの種は納屋で朽ち果てるだけです。しかし、私達が、神様と共に歩む時、どんな実を实らさないといいないかがわかります。それは、友である私達に実を教えてくださいているのはイエスキリストだからです。だからイエスキリストと共にいて寄り添っていく時、私達にイエスキリストが友として大切な事を語ってくれます。主はぶどうの木、わたしは枝です。御言葉にとどまり愛に生きるなら多くの実を結びます。と聖書で語られているように、今日イエスキリストに近づいて、イエスキリストのことば＝御言葉を聞いていきましょう。

(要約者:岡本 英樹)

(2023年10月1日)